

綾町埋蔵文化財調査報告書第7集

UME GANO

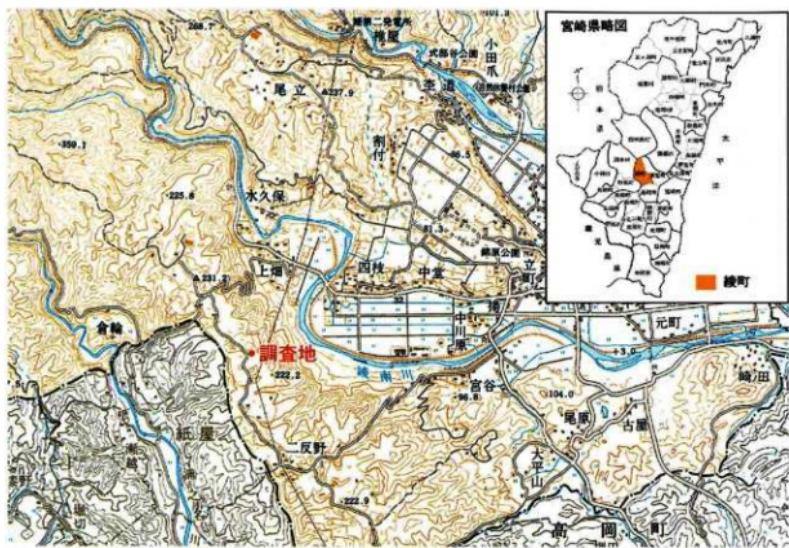
梅ヶ野遺跡

県営中山間総合整備事業古屋・三反野(その2)にかかる

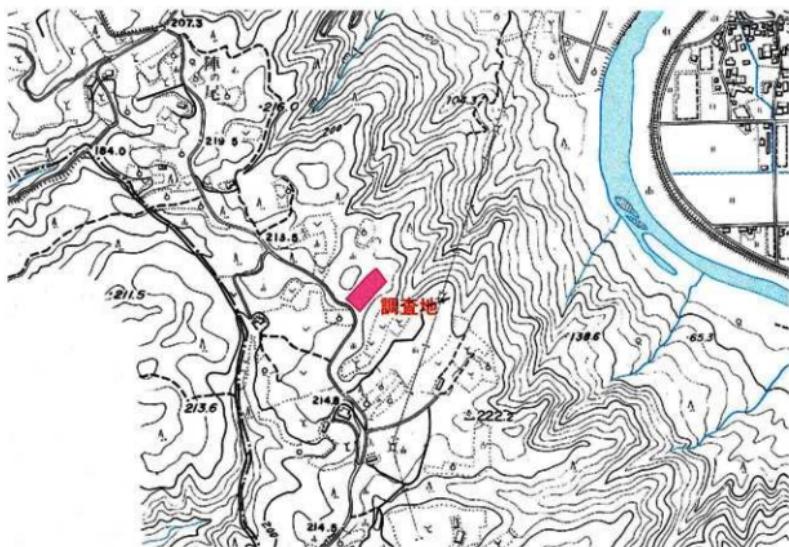
埋蔵文化財調査概要報告書

2004. 3

宮崎県綾町教育委員会



調査地位置図 (1 : 50,000)



遺跡周辺地形図 (1 : 10,000)

1. 調査に至る経緯

平成13年度から行われている、綾町古屋・二反野地区の県営中山間総合整備事業に伴い、平成14年6月、7月に宮崎県文化課が試掘調査を行なったところ、事業地の一部に埋蔵文化財包蔵地の所在が確認された。その後、綾町教育委員会は宮崎県文化課が実施した試掘調査の結果を受けて、遺跡の取扱いについて宮崎県中部農林振興局と協議を行なったところ、事業設計上の理由により、やむを得ず削平されることになった部分において発掘調査を行ない記録保存することとなった。

調査は宮崎県中部農林振興局の委託を受けて綾町教育委員会が実施し、期間は平成15年10月6日から12月19日まで、調査面積は約1,182m²である。

2. 調査の体制

調査主体 宮崎県東諸県郡綾町教育委員会

調査組織	綾町教育委員会	教育長	森山 喜代香
		社会教育課長	玉田 清人
		社会教育係長	蓮子 浩一
庶務担当		社会教育係	井上 隆広
調査担当		社会教育係	井上 隆広
調査作業員		社綾町シルバー人材センター	
調査支援業務		有限会社ジバングサーベイ	
		(有)スカイサーベイ九州	

3. 遺跡の立地と歴史的環境

綾町は宮崎県のほぼ中央部、大淀川水系の綾南川・北川の合流点に位置し宮崎市との距離約20kmに位置するところである。本遺跡は、綾南川南岸標高約220mの高位段丘礫層の台地上に位置している。調査区の周辺は、山林を切り開いた畑地造成などによる影響で旧地形を留めていない場所も多く、本遺跡も一部削平を受けた状況であった。

本遺跡の近隣には、平成7・8年度にかけて行われた遺跡詳細分布調査によって所在が確認されている陣之尾第2・3・4遺跡などがある。そのほかにもこの二反野原の台地上には、表探などのよつて数多くの埋蔵文化財包蔵地の所在が確認されている。

4. 調査の概要

本遺跡では、排土置場等の都合により調査区をA・B調査区の2区に分け、調査を行なった。

A調査区については、小林軽石層上部まで重機により掘削し、その後人力により遺構検出をおこなったところ、土坑が15基、ビットが4基検出された。

B調査区については、二次アカホヤ層上部まで重機により掘削し、直上にて人力により遺構検出した結果、溝状の遺構や土坑1基、貝殻条痕文系土器破片の出土がみられた。再び重機にて小林軽石層までの掘削を行い、人力により遺構検出した結果、土坑8基、ビット1基が検出され、そのビットの埋土中から使用痕の残る石器が見付かった。また調査区全体を通して小林軽石層の上面にて風倒木による地層の横転部が検出された。

基本層序は以下の通りである。

I層 表土（耕作土）	20 ~ 80 cm
II層 盛土（造成時盛土）	25 ~ 100 cm
III層 黒色土 (Hue 7. 5 YR 1. 7/1)	15 ~ 110 cm
IV層 褐色土 (Hue 7. 5 YR 4/6)	10 ~ 70 cm
V層 明褐色土 (Hue 7. 5 YR 5/8)	10 ~ 45 cm
VI層 黒褐色土 (Hue 7. 5 YR 2/2)	15 ~ 75 cm
VII層 黑褐色土 (Hue 7. 5 YR 3/2)	20 ~ 30 cm
VIII層 暗褐色土 (Hue 7. 5 YR 3/4)	40 cm以上 (一部だけ)
X層 黒褐色土 (Hue 7. 5 YR 3/2)	40~70 cm (一部だけ)



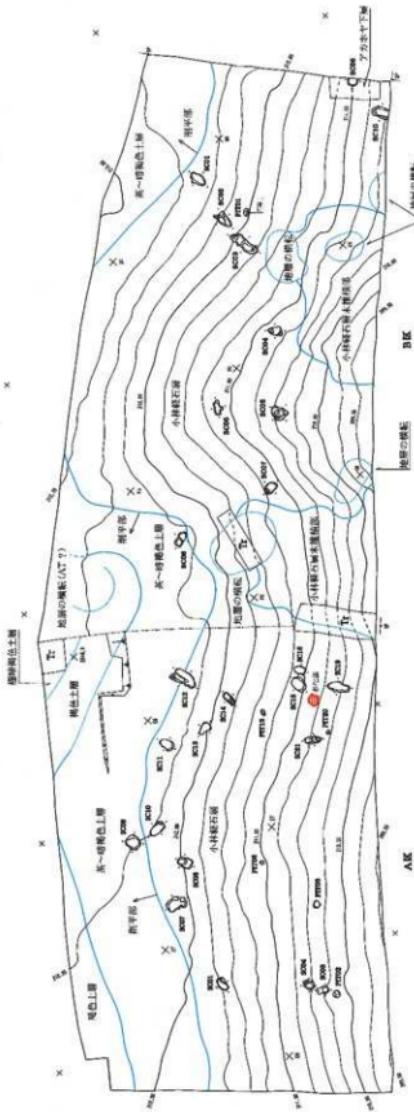
A調査区南側土層断面



B調査区南側土層断面

遺跡全体図

縮尺 1:300





調査地全景



調査地（調査前）



A区小林軽石層上面検出状況（その1）



A区小林軽石層上面検出状況（その2）



土坑半裁状況



土器出土状況



石器出土状況

綾町埋蔵文化財調査報告書第7集

梅ヶ野遺跡

県営中山間総合整備事業古量・二反野（その2）に
かかる埋蔵文化財調査紙要報告書

2004年3月

編集・発行 綾町教育委員会

〒880-1303

宮崎県東諸県郡綾町大字南俣546-1

T E L. 0985-77-1183

印 刷 有限会社 垣原印刷

〒880-1101

宮崎県東諸県郡国富町大字本庄3984

T E L. 0985-75-2015